

ブ又一種ツクバチサツノ形ニシテ、莖葉共ニ毛刺アルモノアリ、ミヤマアカチト云、共ニ山中陰地ニ産ス、

〔農業全書^{三六}草〕茜根^{あかね}

あかねは、山野にをのづから生るも多き物なれども、土地を吟味し糞し、手入して畝に作るに乏かず、土の色黄白にして性よく和らかなるよし、又は青色にして沙交り、又赤土もよし、黍を作りて、其跡を四五遍も耕しこなし、熟糞を多く用ひて、冬より晒しをき、三月うゆる時、いかにも細にして、たねを蒔べし、蒔終りては、うすく土をおほひ、少た、き付をくべし、畦の中草少もをくべからず、取わき草痛みする物なり、たねを取をく事は、圃に作りたるにても、又は山野に自らあるにても、九月よく熟し黒くなりて、已にこぼれ落んとする時、取て日に干、俵か籠などに入をくべし、又は山野に生たるを、九十月根を多く掘取て苗とし、畦作りし間遠にうへて糞し、手入したるも、盛長みすやかなる物なり、肥地によき糞しを多く用ゆれば、根甚さかへ、染付もよく厚利の物なり、山中など其外五穀を作るにはさはり有て、肥良の地あらば必作るべし、

〔草木六部耕種法^四需根〕茜草紫草ノ根ヲ作ル法

茜草山野ノ自然生ハ、其根煎汁色濃シテ上品ナリ、然レドモ多ク得ベカラザルヲ以テ、此ヲ作ルノ法有テ、自然生ニ劣ザル上品ヲ出ス、我家ノ作法ハ、眞土及墟土ニテモ、白黄赤三色ノ土ヲ撰テ、此ニ軟膨^{ホク}ノ法ヲ行ヒ、冬中ヨリ厚ク糞肥ヲ用ヒ置キ、春ニ至リ再能ク細耕シ、善種ヲ間疎ニ蒔散シ、少シ土ヲ覆ヒ押付置トキハ、日アラズシテ芽出者ナリ、因テ他草ヲ勤テ耘除ベシ、又秋末ニ山野ノ自然生ヲ掘リ來テ、種トシ植ルモ能ク肥ル者ナリ、且此物ハ七八番ノ煖氣ノ地ニ蕃生ス、故ニ寒國ノ産ハ紅色淡シ、殊ニ黒土暗青黎赭等ノ土ニ植タルモ、染色鮮明ナラズ、又此物ト紫根鬱金等染料ヲ作ルニハ、其根肥太スル法ノ外ニ、其染色ヲ濃厚ニスル培養法アリ、其事ハ鬱金ノ條